

令和5年度 第1回甲賀市図書館協議会 会議録

1. 日 時：令和5年8月8日（火） 午後7時～午後8時45分

2. 場 所：甲南図書交流館 視聴覚ホール

3. 出席者：【委員】 大西 正泰 山添 智子 辻 聡 増田 定雄
松岡 和子 地村 千里 松本 佐知子 山崎 喜代美
中村 ひろ子 山中 ルミ 平林 秀樹
【事務局】 立岡教育長 柚口部長 松下次長 香取館長 篠原館長
井口館長 片岡館長
【傍聴者】 なし

4. 次 第

- (1) 開会
- (2) 市民憲章の唱和
- (3) 教育長あいさつ
- (4) 委嘱状交付
- (5) 自己紹介
- (6) 協議事項
 - ①会長の選任
 - ②会長職務代理者の指名
 - ③図書館協議会の位置づけと役割について
 - ④付属機関の会議の公開等について
 - ⑤令和4年度 甲賀市図書館活動報告について
 - ⑥令和5年度 甲賀市図書館実施事業計画について
 - ⑦甲賀市図書館条例施行規則の一部改正について
 - ⑧甲賀市子ども読書活動推進計画にかかる第3次計画（現計画）の改定について
 - ⑨甲賀市図書館サービス計画にかかる第2次計画（現計画）の改定について

5. 内 容

- (1) 開会
- (2) 市民憲章の唱和
- (3) 教育長あいさつ
 - ・委員就任のお礼を申しあげる。図書館運営について幅広くご意見をいただきたい。
 - ・コロナ禍ではあるが感染症分類の5類移行に伴いスポーツ、文化、芸術や地域面でも活気が戻ってきた。
 - ・図書館でも館内滞在時間制限の解除、おはなし会を再開するとともに、コロナ禍でも安全に利用できる、新しい生活様式に対応した新たなサービスとしてオンラインによるパスワード発行、レファレンス受付などに取り組んだ。

- ・甲賀市教育大綱に基づく教育施策の柱に「いつでも、どこでも、だれでも学びあえる生涯学習環境の充実」「子どものときから本に親しむことができる環境づくり」を掲げ、図書館事業運営の充実に努めている。
- ・多くの子どもたちが読書に興味を持ち、習慣となるためには図書館とボランティアの方々、学校、園、関係機関などが連携し子どもたちを支えることが重要。
- ・本市がめざす図書館運営実現のために、忌憚ないご意見、ご提案を賜りたい。

(4) 委嘱状の交付

(5) 自己紹介

(6) 協議事項

①会長の選任

- ・互選により大西正泰委員を選出

②会長職務代理（副会長）の指名

- ・会長により地村千里委員を指名

会長あいさつ

- ・委員皆様には2年間よろしくお願いします。新任の方もどんどん発言してほしい。
- ・新任の皆様にお願ひがある。普段から図書館との関わりはあると思うが、今まで以上に図書館運営に関心、興味を持っていただければ思う。

例えば甲賀市には5つの図書館があるので、普段通いなれた図書館と違う図書館に行ってみるなどして、様々な視点から図書館にご意見いただければありがたい。

(以降、会長により議事進行)

③図書館の位置づけと役割について

[事務局から説明]

会 長：今の説明について質問はないか。

委 員：なし

④付属機関の会議の公開等について

[事務局から説明]

会 長：今の説明について質問はないか。

委 員：なし

⑤令和4年度甲賀市図書館活動報告について

[事務局から説明]

会 長：今の説明について質問、意見をお願いしたい。

委 員：乳幼児おはなし会は再開しているのか。

事務局：再開している。

委 員：貸出数について、令和2年度は減少、令和3年度は回復、令和4年度減少。
コロナの影響は解るが、回復、また減少と推移する理由を分析しているか。

事務局：令和4年度の減少については課題と認識している。

令和3年度は個人の寄付をいただき、児童書を新しく買い替えた。

移動図書館車にも搭載し甲賀、甲南、土山の小学校で共同利用しているこ

とから貸出数が伸びる要因の一つであったと考える。

また、コロナ禍の滞在時間制限による影響もあったと考えている。

今後は滞在時間の制限もないことから、貸出につながる利用方法を考える。

委員：地元小学校PTAに関わっていた当時、子どもの時から本を読む習慣が大事と聞いていた。また、他県の町が、空き教室を利用して学校図書を置き学齢によって読ませたい本を設置するなどの工夫によって、利用率を上げているという取り組みを研修した。

年齢別貸出冊数をみると学齢の子どもたちの利用が案外少ないように思う。

小学校の時から本を読ませる活動ができないものかと考えるが、いかがか。

事務局：人口比率から考えると小学生の貸出冊数は多いのだが、中学生高校生では減っている。確かに小学生の時に本との接点を持たせることは大事である。国では平成13年に子どもの読書活動の推進に関する法律が出来た。

これを受け甲賀市も子ども読書活動推進計画を策定し、この中で学校図書館に関する目標値をしっかりと押さえていくこととしている。

会長：今日この場で全体を議論するのは時間が限られている。

提案であるが、活動報告を読み解くための機会を別に設けていただきたい。

内容はもちろん、言葉の意味や説明も事務局でお願いしたい。

事務局：承知した。

⑥令和5年度甲賀市図書館実施事業計画について

〔事務局から説明〕

会長：この件についても、別の機会を設けてご意見など願います。

⑦甲賀市図書館条例施行規則の一部改正について

〔事務局から説明〕

会長：皆さんの中に、甲南の金曜の夜間開館を利用したことのある方はいるか。

（委員5名挙手）

皆さんのご意見はどうか。

委員：利用が少ないのであれば止めてもよいと思う。

会長：利用したことはあるが、開いていれば行くという人も多いのかもしれない。コロナで休止が続いている中、再開するとなると難しい問題かと思う。

他にご意見どうか。

委員：とても贅沢な時間ではあった。仕事帰りにちょっと寄ってから帰るという場所だったから。しかしたしかに利用者は少なかった。

現状として説明のあったような状況であれば、やむを得ないと感じた。

会長：事務局説明のように、他のサービスで補えるという判断であれば問題ないと思うがどうか。

委員：承認

会長：ではこの改正については、提案のとおり進めるということをお願いする。

⑧甲賀市子ども読書活動推進計画にかかる第3次計画（現計画）の改定について

〔事務局から説明〕

事務局：要点を２点補足する。

１点目は、国の計画に合わせていくということ。

２点目は、市の上位計画である甲賀市総合計画に合わせていくということ。
図書館を所管する教育委員会に教育総合計画という上位計画があり、さらに上位にある市総合計画との計画期間のズレをなくし終期を合わせるもの。

会 長：学校図書館図書標準を達成している学校数の割合のところ、中学校の目標率が下がるのはどうか。

事務局：この部分は昨年度の図書館協議会で議論され、矛盾もあるがいったん現状に合わせることにされていた。今年度に入り教育委員会の計画として定例会に諮り、確定したことからこの会議で改めてお示しするとともに、次の第４次計画ではこの点をしっかり議論していく。

会 長：次の計画に向けた議論で押さえるという理解でよいか。

事務局：まさに本日委員各位から賜ったご意見が、この子ども読書活動推進計画にも関わってくる内容であるので、第４次計画にしっかり反映させるためにもご議論いただきたい。

会 長：ではそのように進めることとする。

⑨甲賀市図書館サービス計画にかかる第２次計画（現計画）の改定について

〔事務局から説明〕

事務局：このサービス計画も先ほどの子ども読書活動推進計画も終期を１年延伸することにより、次期計画策定に際しては、委員皆様の令和７年７月までの任期中にご意見賜ることになるのでよろしくお願いします。

また、実績に伴う図書館評価を毎年行っているが、３年に一度、委員皆様による外部評価も行っており、今年度はその年にあたる。その節にはぜひご意見賜りたい。

会 長：では、先ほどお願いした次回研修の機会、本件や外部評価の件も併せて説明願いたい。

⑩その他

委 員：配架の仕方が図書館によって違う。例えば、作者毎にまとめてある館と、同じ作者でも小説・エッセイで置き場所が違う館もある。
統一しないのか。

事務局：図書館毎に利用者さんの声などを反映して配架を始めたこともあり、統一はなかなか難しい現状である。

委 員：前からそのように並べているからということか。

委 員：それぞれの図書館が最初決めたルールで配架されており、それを今から並べ替えて統一することはたいへんな作業。それぞれの特色でもある。

委 員：湖南市との広域利用が始まり、湖南市の本を借りられるようになったので借りているが、読んだ後に返しに行くのが結構たいへんである。

甲賀市で返すことはできないか。

事務局：甲賀市と湖南市で広域の協議会を作り、行政分野の課題を議論している。

伊賀市と亀山市ともイコカ連携をしており、行政分野におけるいろんな議論をしている。

甲賀市湖南市でも同じように課題解決に向けた議論は可能と考えるので、委員のご意見は湖南市の方々にとっても課題であることから、ご意見として賜っておくと共に、今後もいろんな議論を高めるためにぜひ声を挙げていただけるようお願いする。

会 長：現在、甲賀市図書館で「思い出の本さがします」を実施されており、好評であると聞いている。

このたび、これにリンクする形で旧水口図書館を会場として「本の思い出を語り合う一日」を計画した。ビブリオサポーターズが共催している。

ぜひこちらも立ち寄っていただきたい。

(7) 閉会

副会長あいさつ

- ・図書館を建築から考えるという催しに、先日携わったこととお話する。

戦後の図書館建築のパイオニアである鬼頭梓さんが設計された図書館建築から市民に開かれた公共空間のあり方などを学び、未来像を考えるというもの。

甲賀市では信楽図書館、県内では湖東図書館などがある。

建築からみる図書館、使いやすい図書館、民主的で開かれた図書館ということについても考えるよい機会であった。

滋賀県内の違った図書館のご意見も聞いてみたいと感じた。